

「家がいいね」 第39号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2007. 8. 15

「千の風」とお墓

墓参りの蒸し暑い日、
蟬の羽化を見ました。
その後、手を合わす墓
石に、「ここには居ませ



んか」と空蟬を見る思いです。「千の風」に唄われ
る追憶は、元々日本に合致しているのでしょう。
煙と共に天に昇り、雨と共に降り注いでいると自
然に思われます。逆に亡骸を墓地に埋葬する国で
は「千の風」が新鮮な視点なのかも知れません。

数字信奉と「生きる意味」

飛騨高山でのホスピ
ス研究会で、医療界以
外の人達から、様々な
話を聞きました。上田
紀行さんの言葉に誘わ
れ、著書を読みました。



不安を何とか数字で解消したいと、血圧や検査
値を繰り返して確かめる患者さんを見ると、長生き
であっても生きる意味が分らない時代です。グロ
ーバル(全地球的)な競争を当然と強いる社会は、
老いても若きも本来の自分が尊重される存在である
事を、平然と剥奪します。モノや効率を追いかけ
ないで、自分の生きる意味を問い直してみると、
「経済不況」や「構造改革」の底が見えてきます。

「ぼけても大丈夫だよ」

認知症(いわば病气)として取り
組むとしても生活の視点が無ければ、
忌まわしいもののように遠ざける事
になります。7月7日のNHK鈴鹿
フォーラムでの遠藤英俊医師は、回
想療法等の治療を患者さんや家族の
ために地域で根付かせようとしてお
られ素晴らしいと思いました。もし
インターネットが使えるようなら、「パソコン回想
法」で検索すれば見本ページが開く、と教えても
りました。懐かしい時代を、一度ご覧下さい。



8月11日の介護講演会の言葉から

三好春樹さんの言葉は生き物のようになってくついで
離れません。「力任せの介護力士ではなく、相手
の力を利用する介護があります」「こちらに任せよ
うと思わせる付き合いや技術があるんです」「換言
すれば、主体性を奪わない、どうやったら目的を
持ってもらえるか、という事です」「病院の介護が
良いとは思えません。急性期は生活剥奪期です」

「終わりよければすべてよし」自主上映会

みえ生と死を考える市民の会 主催

10月6日(土) 10時、13時の2回

15時半より「おしゃべり会」もあります。

三重県総合文化センター 小ホールにて

前売り700円 当日千円

この題を、「家族や社会のために頑張ってきた人達
を、その最期でも大切にしない社会は、どこかお
かしい」と、私は読み替えます。病院で死ぬのが
当然のようになった社会。代償に過剰な医療が最
期まで施され、その医療の中止も他人の意思にゆ
だねられる。法律や制度を問う以前に、私達の「生
きる意味」を、この映画の監督(羽田澄子さん)
はぜひ個々に考えて、と言っているのです。

地域のお互いの生活の中で、最期までこの家で
本心に暮らすためにどうしたらいいのか、伊勢市
でも、自主上映会を
企画中です。ご協力
ください。



若い医師の在宅医療の研修について

伊勢総合病院の研修医の先生が、訪問に同行します。
御協力をよろしくお願い申し上げます。



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
mail homecare@kr.tcp.ip.or.jp
<http://www.tcp-ip.or.jp/~takuro>